

令和7年12月10日
(2025年)

保護者のみなさまへ

吹田市立千里第三小学校
校長 江下 毅

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

多くの項目（設問）で平均正答率は全国値を上回り、良好な結果でした。

1. 「話すこと・聞くこと」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する問題で相手の発言の意図や話し合いの展開を整理する部分に課題が見られました。
2. 「読むこと」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。いくつかの資料の中から目的に応じて必要な情報を見つけて読み取り、条件に合わせてまとめる問題で無回答率が多く、課題が見られました。
3. 「書くこと」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。書くことでは、図や表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが大切だということを授業を通して気づくことができていると考えられます。
4. 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られました。
5. 「情報の扱い方に関する事項」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。読むことの課題と同様に、図などで必要な情報を見つけて整理する力に課題が見られました。
6. 「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができましたが、選択肢の中で類似する言葉が多く、読み取りに課題が見られました。

●国語科における今後の指導改善点について

「目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つける力」をみる記述問題の正答率が低い傾向にありました。この問題では、設問の条件を正しく読み取れず、自分の主張だけを書いたり、理由のみを述べたりして文章全体の構成を整えて答えることが難しかった児童が多く見られました。

この課題を踏まえ、今後は、次の2点を意識した指導を行います。1つ目は、「主張—根拠—理由付け」を明確にし、筋道を立てて書く力を育む学習です。自分の主張をはっきりさせ、資料から根拠を見つけて結び付けながら、内容と構成の両面から表現力を高めます。2つ目は、「読む」と「書く」を行き来させる学びです。書くために読むというような単元づくりを行い、複数の情報を活用して考えを深める力の育成をめざします。

●算数《概要》

すべての項目（設問）で平均正答率は全国値を上回り、良好な結果でした。

1. 「数と計算」では、分数の加法について共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを、数や言葉を用いて記述できるかどうかを判断する問題が出題されました。正答率は全国値を上回っているものの、同じ領域の問題と比べて不正答率・無回答率ともに高く、課題が見られました。また、数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分としてとらえることができるかどうかを見る問題の不正答率・無回答率も高くなっていました。
2. 「図形」では、面積の求め方、平行四辺形の作図、台形の性質、角の大きさについて理解しているかを問う問題が出題されました。五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く問題では、正答率が50%程となり、三角形と四角形に分けて計算することができていないところに課題が見られました。
3. 「測定」では、大阪府(公立)・全国(公立)の正答率を上回っていました。
4. 「変化と関係」では、「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前」の何倍になっているかを求める問題が出題されました。正答率は全国値を上回っているものの、同じ領域の問題と比べて正答率が低く、課題が見られました。
5. 「データの活用」では、目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題が出題されました。正答率は全国値を上回ったものの、知識を問う問題に比べて低い正答率を示すなど課題が見られました。

●算数科における成果と今後の改善点について

どの項目（設問）においても平均正答率が全国値をすべて上回っていることから、基礎基本の定着を図ることができています。しかし、他の設問と比べて、説明する対象を明らかにしたり、自分の考え方や解決方法を記述したりする問題など、記述式の問題については、正答率が低い結果となりました。

今後の指導の方向性としては、これまで同様基礎基本の定着はもちろん、基準となる数を見出し数量の関係を捉えさせることや、数学的な用語や表現について知識の習得と、習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めていけるような授業展開になるよう教材研究と学習指導に取り組んでいきます。

●理科《概要》

すべての項目（設問）で平均正答率は全国値を上回り、良好な結果でした。

1. 「エネルギー」を柱とする領域は、全国値を上回っています。しかし、身の回りの金属の性質について理解し、自然の事物・現象と知識を関連付ける設問において課題が見られました。
2. 「粒子」を柱とする領域は、全国値を上回っています。今回は水に関する知識を概念的に理解しているかを問う設問が出題されました。習得した知識を他の学習や生活に関連付けて思考し判断する力は、十分に定着していると考えられます。
3. 「生命」を柱とする領域は、全国値を上回っています。発芽の条件について解決の方法を発想する設問が出題されました。複数の条件を比較し、差異点や共通点をとらえ、新たな問題点を見出す記述式の問いで、無回答率が目立つ結果となりました。
4. 「地球」を柱とする領域は、全国値を上回っています。解決するための実験方法を発想したり、結果をもとに考察したりしながら、問題を解決できるかどうかをみる設問が出題されました。獲得した知識をもとに、予想を立て、変える条件や変えない条件を整理しながら実験方法を考え、結果をもとに考察するといった科学的に問題を探求する力は定着していると考えられます。

●理科における成果と今後の改善点について

児童が観察・実験を通して考えを深める学習が定着していることが成果として挙げられます。一方で、実験結果や観察内容を言語化して説明する記述問題での正答率が相対的に低く、思考の過程を文章で表現する力に課題が見られました。普段の授業から、考察を書くことに抵抗を感じている児童も多く見られます。そのため、自ら問題を見出し、考えを表現する活動を意図的に取り入れていく必要があります。

今後は、授業の中で小さな「書く場面」を積み重ね、自分の考えを表現できる力を育成します。また、根拠を明確にして考えを説明する活動を充実させ、理科的な見方・考え方を日常生活に生かせる力を育てていきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

・学習塾などでの勉強時間を含めた家庭学習時間は平日・土日ともに今年も全国値を大きく上回りました。

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対し、肯定的な回答をする児童が、全国値を下回りました。

【自己肯定感】

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対しては、全国値を上回りました。
- ・「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という問いに対しても、全国値を上回りました。
- ・「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という今回新設された幸福感に関わる項目について、肯定的な回答する児童が全国値に比べて下回りました。

【教科・学習について】

- ・「学校に行くのは楽しい」と回答する児童は全国値を上回りました。
- ・「授業で ICT 機器をどの程度使用しましたか」などの ICT に関わる項目は今年も全国値を大きく上回りました。
- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに対しては全国値を上回りました。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対し、肯定的な回答をする児童が全国値を下回りました。
- ・「読書は好きですか」の質問については、肯定的な回答した児童が全国値を大きく上回りました。

【地域や社会に関わる活動の状況について】

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童が全国値を下回りました。

3 今後の取り組み

本校の児童は、基礎基本の学力は身につけているものの、それらの知識を活用したり、自分の考えを記述したりする問題になると正答率が下がり、無回答率が高くなる傾向が見られました。

今年度も「子どもの主体的な学びのある授業づくり」をテーマに授業研究を進めています。本校の教育目標「ともに学びともに育つ」にあるように、友だちとともに学ぶ中で考えを広げ、一人ひとりの主体性をさらに高められることのできるような指導を進めてまいります。また、グランドデザインとして「ええやん・考えてみよう～自分のこと・友だちのこと～」を掲げ、『聴きたい・知りたい・伝えたい』をベースにした学校づくりを進めています。

また、生活環境や学習習慣等の調査結果を踏まえ、学級活動や委員会活動、異学年交流等の子ども同士が関わり協力し合う機会を通し、他者への思いやりを育める場面を意識的に作っていきたいと考えています。具体的には道徳の授業やいじめ予防授業での学びを学校生活の中で深める機会を積極的にとらえ、いじめを許さない心を育てていきたいと考えています。

さらに、今回の調査で、子どもたちの自己肯定感が高いにもかかわらず、幸福感が全国値を下回っている結果が出ました。これは、『自分の頑張りが大人に認められる部分が少ない』ことで幸せを感じることができていないことや『当たり前のことが実は幸せなことである』ということを日々の生活の中で子供たちが感じるできていない結果ではないかと考察しています。私たち大人が、自己肯定感の高まりと、子どもたちが感じている幸福感がリンクできるように、ご家庭とともに、子どもを見守っていかれたらと思っています。

今後も地域や家庭の協力を得て、他人を尊重する気持ちや態度を育めるような学校づくりを目指してまいります。よろしくお願いいたします。